

子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業 (地域の自然環境や教育資源を活用した事業)

おい町の魅力を子供たちと体験するためのマップづくり事業

おい町教育委員会(生涯学習課)

【事業のポイント】

- おい町の大飯地域を流れる「佐分利川」の生物の多様性とそれを取り巻く豊かな自然環境＝おい町の”宝”
- この”宝”を再認識して、いかに次の世代に継承するか。
- そこで⇒『子供たちと一緒に まちの魅力スポットを自然体験マップに』
- 自然体験マップの作成を通して、地域の魅力の掘り起こしや話題提供、自然体験活動・地域の活性化につなげていく。



小学校でのワークショップ

1. 企画

(1) 事業実施の背景

過疎化・少子高齢化により、地域のコミュニティ力が減退し、また、一次産業の衰退により田舎でも農林水産業に携わる家庭が減少している中で、様々な情報メディアやインターネット、スマホ、ネットゲームが青少年世代やその親世代にまで浸透している。

このような背景により、世代間や地域間でのコミュニケーションが希薄になり、子どもたちが地元の自然・文化・伝統を体験・学習する生活環境が急速に失われつつある。このままでは地域住民が、町の魅力や「宝」を見失ってしまい、次の世代に継承することさえできなくなってしまうことが危惧される。

この現状を打開するために、地元の自然環境・歴史・文化等を活かした多様な体験活動を広く長く促進させることが不可欠であり、その一つの方法として、子供たちと一緒に町の魅力スポットが一目でわかる自然体験マップを作成する。

(2) ねらい

① 自然体験マップという形で情報を視覚化して共有することで、その情報をより多くの子供から大人まで利用することができる。

② マップの作成にあたっては、小学校(小学生)や地域に関わる団体等が集まり協力しながら、自然環境や伝えのある文化・歴史等、地域資源の収集を行う。マップづくりをする過程で、地元の青少年の自然体験を支援するネットワークをつくることができる。マップは誰もが楽しみながら、またイメージを具体化できるように、イラストや写真を多用する。

③ 出来上がったマップは、学校での教材として、また、公民館や各団体等で地域の魅力の掘り起こしの話題提供、自然体験活動、地域の活性化につなげていく媒体として活用する。

2. 実施概要

(1) 実施主体

子ども会、地域内の各小学校、社会福祉協議会、環境保全組合、漁業協同組合、環境に関するNPO法人で構成する実行委員会

(2) 開催実績

月 日	内 容
6月中旬	運営体制の検討
7月4日	実行委員会及び基調講演「地域の魅力を発掘し地域づくりに活かそう」開催
7月5日	ワークショップ「地域を豊かに愉悅にする教室」開催
7月中旬から	マップ情報の収集開始
7月15日	小学校でのワークショップ及び情報収集
7月24日	河川生態観察会
7月28日	子ども教室でのワークショップ及び情報収集
8月27日	公民館での情報収集

10月14日	現地踏査及び情報収集
10月15日	小学校でのワークショップ及び情報収集
10月15日	現地踏査及び情報収集
11月11日	「合宿通学」でのワークショップ
11月26日	小学校でのワークショップ及び情報収集
11月14日	現地踏査及び情報収集
11月15日	現地踏査及び情報収集
12月18日	小学校での「地域の魅力報告会」
12月下旬～3月	収集した情報をもとに自然体験マップを作成

(3) 推進月間の設定

特になし

(4) 事例の収集と発信

- ・各小学校や公民館等でワークショップの実施及び現地踏査
- ・ワークショップの様子や感想等をホームページや学校便り等で広報

(5) 意見交換の場の設定

- ・実行委員会、ワークショップにおいて実施

(6) 新たな青少年体験活動の推進方策の検討と試行

- ・今後、この自然体験マップに接する皆さんが新たな情報を追加することで、事業の継続と地域プラットフォームの形成の推進が図れるものと考えられる。
- ・今後、マップを活用した取り組みを継続していく中で、地域が一体となった、より確かなプラットフォームの形成を図っていく。

3. 成果と課題

(1) 事業成果

- ・各小学校の全面的な協力のもと、児童に対して「自分たちが住む地域の魅力や好きな場所やものを」考えてくることを夏休みの宿題として出し、その成果を教材として『地域の魅力発見』と題したワークショップ形式の授業を行った。このことで、単に情報収集にとどまることなく、子供たちが改めて自分たちの住む地域の魅力について感じる事ができた。
- ・また、子供たちが自分の住む地域に誇りを持つことで、子供たち自身の自尊感情を高める一助とすることができた。

(2) 事業運営上の課題

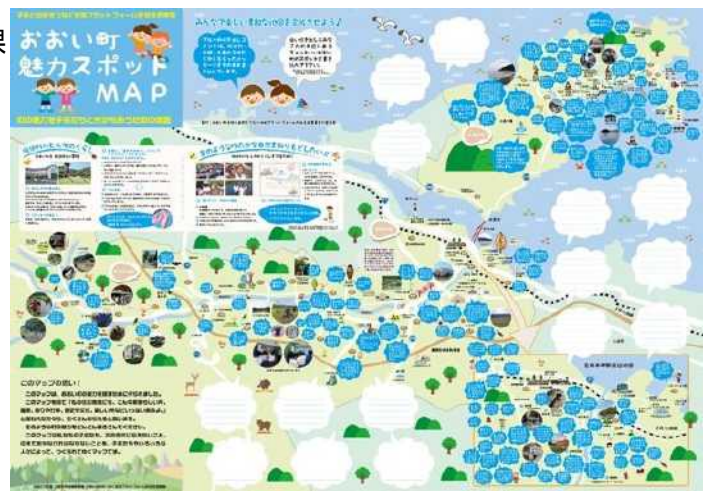
- ・今回は、実施自然体験マップの作成過程において、学校との連携が中心となってしまったが、今後、マップを活用した取り組みを継続していく中で、より多くの人・団体・機関と連携し、地域が一体となった、より確かなプラットフォームの形成を図っていく。

(3) 事業成果の普及啓発の課題

- ・作成した自然体験マップには書き込みスペースを設けたので、個性豊かで実用的な活用ができ、子供たちが地元を学習する教材となり、また、一種のハザードマップとしての活用や子供たちが暮らす日常を記録することができ、その情報をより多くの友達や家族・大人と具体的なイメージを可視化して共有することが可能である。
- ・子供たちに限らず、高齢者には昔を懐かしむ資料として、またサロンでの集まりの話題提供として活用でき、世代間を超えた交流の材料とできる。
- ・町外から訪れた方にも、地域の良さを観光情報として伝えることができ、地元住民が見過ごしていた魅力を発見して伝えてもらえるのではないかと期待できる。
- ・今後、この自然体験マップに接する皆さんが新たな情報を追加することで、事業の継続と地域プラットフォームの形成の推進が図れるものと考えられる。

4. 団体プロフィール

○おおい町教育委員会事務局生涯学習課
〒919-2111
福井県大飯郡おおい町本郷136-1-1
TEL 0770-77-1150
FAX 0770-77-1177



おおい町魅カスポットMAP(サイズ:B1)